

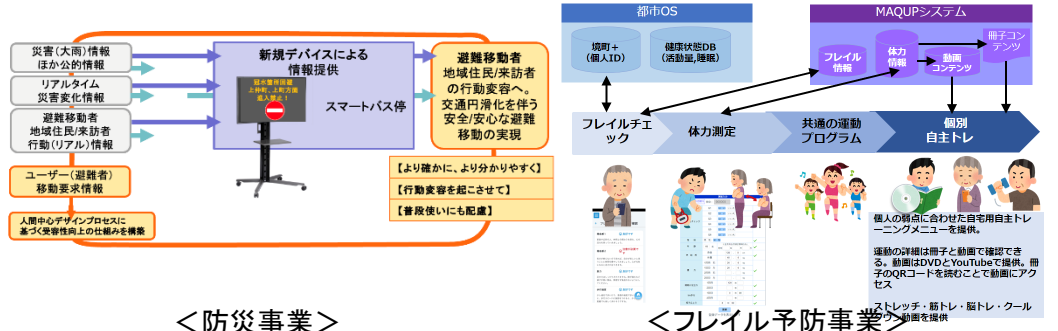
境町【河岸の街さかいスマートシティ推進事業～誰一人取り残さない、安全/安心/円滑な「移動」を実現するサービス～】

実施地域	茨城県境町中心部（道の駅、役場エリア付近）
実施主体	境町
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・境町は利根川の流域に位置し、氾濫危険水位等を伝達する手段と、自力で避難できる体力を高齢者に維持させる点に課題がある。 ・防災情報や健康施設活用事業に関する情報を、根付いている自動運転バスのバス停等、町の各所で表示する事業並びに次年度の準備を行う。 ・次年度にフレイル予防のための個人ごとの健康メニューなどを個人端末でも受信できるようにする等のため、既に構築されているデータ連携基盤の改修も併せて今年度に行う。フレイルチェック結果データをクラウドサーバーへ蓄積し、フレイル予防システムで判定した個人に紐付く健康状態等のパーソナルデータを、自動運転バスの利用頻度など住民の活動データとデータ連携し、相関性をもって、自力での移動が困難な住民には自宅まで送迎するオンデマンド運行やバス運行便の調整、適切な避難先や避難経路の策定などにつなげる。そのため都市OSの改修と接続を今年度におこなう。

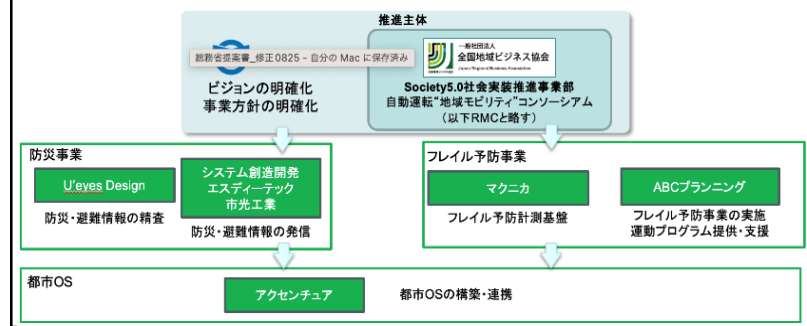
取組内容

<防災事業との連携サービス>
 高齢者が主な利用者である自動運転バスのスマートバス停を町の主要施設に設置し、そこで既構築済みの防災事業で集約した河川の水位等氾濫情報などの災害情報を発信することで、外出中でも高齢者が効果的に災害情報入手できるようにする。
 ①災害情報集約と他の住民向け発信情報とのデータ・システム連携
 ②平時からバス停周辺では防災や健康施設情報の取得ができることを習慣化し、特に高齢者の外出時の迅速な避難につなげる。

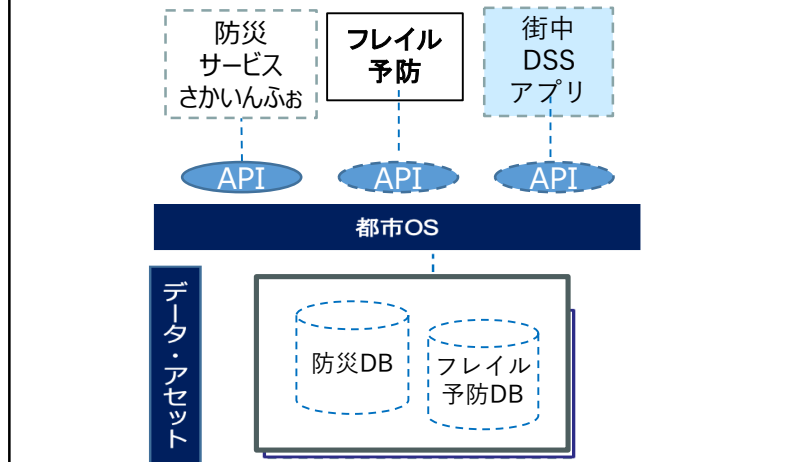
<フレイル予防事業との連携サービス>
 個人の健康データを収集し、個人に合わせたトレーニングメニューを提供することで、効果的に自立状態を維持することを目指す事業を実施しており、構築済みの都市OSと接続することで、フレイルチェック結果データ等をクラウドサーバーに蓄積し、フレイル予防事業で判定した個人に紐付くデータをデータ連携基盤に接続、自動運転バスの利用頻度や健康状態などの相関性などを分析し、今後の町の設計に活用しつつ、個人の行動力に併せた避難経路や避難先の算出、移手段の最適化、移動できない方には自動運転バスで送迎する仕組み等を進めていく。そのための都市OS改修と接続を今年度に行う。



実施体制図



システム構成図



秩父市【三峰駐車場の混雑状況の計測・分析およびポータルサイトによる可視化と都市OS利活用推進事業】

実施地域	埼玉県秩父市
実施主体	秩父市
事業概要	<p>秩父市では、人気観光地である三峯神社来訪者による長時間の渋滞や混雑が、観光者及び近隣住民に与える影響が重要課題。渋滞等の原因となっている三峰駐車場において、今年度、AIセンサーカメラを設置することで、駐車場の混雑状況を可視化するとともに、車のナンバー情報を取得する。これにより、来訪者の地域属性や平均滞在時間等といった情報や行動パターンの把握・分析のうえ、既に構築済の都市OSを活用して観光関連情報と組み合わせることで、別に開発するダッシュボード(ポータル)において、観光者に対して混雑状況に応じた別の周遊ルートの案内等のサービスを提供する。</p> <p>(また、同市では、混雑時や災害時にドローンを活用した配送サービスの構築に取り組むこととしており、今年度は、当該駐車場の混雑情報と気象情報のオープンデータ、ドローンの飛行ルート等も組み合わせた運行管理システムの実装に向けた検証を行う。)</p>

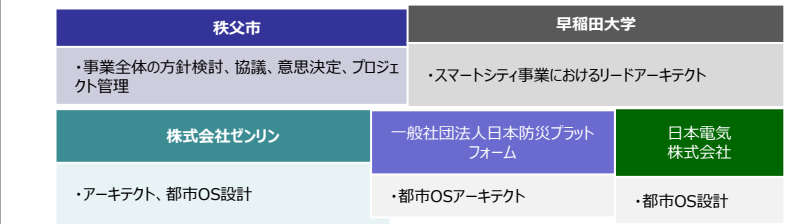
取組内容

- 三峯神社の駐車場に設置するAIセンサーカメラで、駐車車両のナンバープレートの地域分類情報、滞在時間、駐車日時、曜日、時間帯の情報を取得し、車両の来訪エリアや平均滞在時間等を分析し、曜日別・時間帯別の駐車状況や駐車場混雑状況をリアルタイムで把握、アウトプット情報として、同駐車場の満空情報、混雑情報を抽出。(通過台数、インアウト記録、空き台数等で混雑を分析)
- 別途、都市OSにインプットするトイレ、飲食、土産店等の情報と上記混雑情報を組み合わせることで、ポータルサイト等に、駐車場の混雑情報に加えて、トイレの場所、飲食店、土産店等の情報や、駐車場の空き待ち時間をまとめて可視化させる。
- 観光の行動パターンの把握・分析を行い、混雑状況に応じて別の周遊ルートを表示することも可能となり、さらなる観光施策に活用することができる。(混雑時は観光MaaSへ遷移)

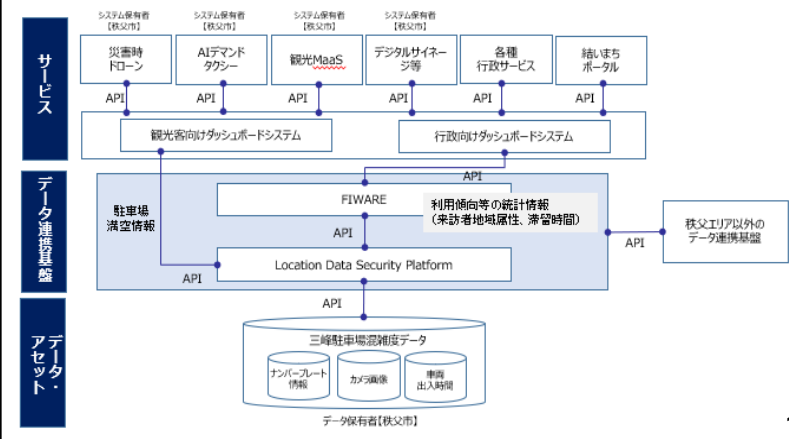


【写真】三峰駐車場約500m手前渋滞の様子

実施体制図



システム構成図



すさみ町【防災と観光データ相互連携による住民と訪問者を繋ぐポータルサイト事業】

実施地域	和歌山県西牟婁郡すさみ町
実施主体	すさみ町
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・すさみ町は、官民で人手不足の傾向にあり、ボランティア活動募集などの外部からの呼び込みに関する効果的な周知と交流の促進が望まれている。住民と訪問者の接点ができるツールに限られており、活用ができていない課題がある。また、南海トラフ地震や大雨等のリスクも年々拡大していることから、災害情報の住民及び訪問者への伝達にも課題がある。 ・令和5年度は、官民ポータルサイトを構築し、住民及び観光客の接点となるイベント/観光/ふるさと納税情報、ボランティア/コミュニティ情報、自治体のオープンデータによる施設設備等の情報を、地図上に表示するためデータ連携基盤を構築する。 ・令和6年度以降も様々な官民の情報を同じポータルサイト上に同時掲載し、住民が直接掲載できる機能も検討しており、複数分野データ連携機能や共通IDによるログイン等により、必要な人が必要な情報をタイムリーに入手できる仕組みとするため、5年度中に準備する必要。

取組内容

- 令和5年度は、ポータルサイトを構築し、住民及び観光客が接することができる地域住民活動情報(イベント/観光/ふるさと納税可能箇所情報、ボランティア/コミュニティ情報)、自治体保有情報(公衆無線LANアクセスポイント箇所、AED設置箇所、医療機関箇所等)、を官民で入力し、職員、住民、事業者、観光など外部からの訪問者、誰もが地図上で利活用できるようにするためのデータ連携基盤を構築する。
- 具体的には、複数分野データを統合して地図上に表示し国交省推奨のPLATEAUデータもデータ連携基盤と接続するシステムを実装することで個別にアプリ用意が不要となる。平時だけではなく、災害時のきめ細やかな支援、安全性の見える化も実現される。
- 観光ポータルによる情報発信を起点としたソフト事業も併せて開催し、住民と訪問者の交流機会の促進を行う。(一部は発信したい住民が直接ポータルサイトに掲載できる。)
- 令和6年度にドローンによる孤立避難所物資配送/津波後の異常点検/避難に関する指示での災害対策本部職員の省人化と危険作業低減、観光ポータルへ防災情報(ハザードマップ/避難所/避難場所/備蓄倉庫在庫情報)のサービスが追加できるように令和5年度中にデータ連携基盤を実装。



実施体制図

実施主体	すさみ町
都市OS運営・管理	すさみ町
共同実施団体	すさみスマートシティ推進コンソーシアム 和歌山県 一般社団法人すさみキャンパス

システム構成図

